

検討の観点と内容の特色

『高等学校 国語総合 現代文編』 『高等学校 国語総合 古典編』

| 発行者番号・略称 | 教科書の記号・番号 |
|----------|------------|
| 15 三省堂 | 国総 305・306 |

A5判、現代文編248ページ・古典編184ページ

編集代表：中瀬正堯・岩崎昇一

<1. 内容>

- ①全体を通して、総合的な国語力を確実に育成するために適切な内容である。
- ②『現代文編』では、オーソドックスな教材と現在注目されている著者による新しい教材とを豊富にかつバランスよく採録している。
- ③『現代文編』の教材には、幅広いテーマから、生徒の関心を引く話題や主体的に考えられる話題が取り上げられており、生徒が意欲をもって学習に取り組めるようになるとともに、思考力を高め、論理的に物事を捉える力を育てることが十分期待できる。
- ④『現代文編』の「<いま>を読む」では、現代的なテーマの文章から読み取ったことをもとに調べたり、自分の意見をまとめたりする活動が設定されており、小論文の初期指導に適切である。また、PISA型読解力の育成にも資するものとなっている。
- ⑤表現教材は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導のための実用的な言語活動がコンパクトにまとめられており、生徒のコミュニケーション能力を高めることが期待できる。
- ⑥『現代文編』の「読書の扉」では、読解教材に関連した書籍が写真・解説入りで豊富に紹介されている。選書も適切で、生徒にも入手できるものが選ばれており、読書指導に有益である。
- ⑦『古典編』は、丁寧な導入教材とともに、各ジャンルのオーソドックスな教材を豊富に採録している。また、文法・句法についても適切にまとめられているので、基礎的・基本的な事項を確実に学習できるだけでなく、学校の実態に合わせた指導が可能になっている。
- ⑧『古典編』のコラム「古典の扉」は、作品の時代背景や当時の生活風習、古典作品と現代とのつながりなどが平易に解説されており、作品理解を深めるのに役立つものとなっている。
- ⑨見返しや巻末付録には、さまざまな学習活動で活用できる資料が掲載されており、生徒の教材理解、言語活動を支えるものとなっている。

<2. 構成・分量>

- ①『現代文編』『古典編』とも、ジャンル別の単元構成で、学校での指導の実態にあった構成となっている。
- ②『現代文編』『古典編』とも、個々の教材の長さが適切であり、かつ教材数が適度に多く、学校の実態に合わせたカリキュラム編成ができるように配慮されている。
- ③現代文教材は、評論・小説・随想・詩歌がバランスよく収録・配置されている。
- ④表現教材は『現代文編』の末尾にまとめて収録してあるので扱いやすい。
- ⑤古文教材は、説話・物語・随筆・和歌・日記・軍記・紀行といったジャンルが網羅されてい

る。また、分量も適切で、バランスよく収録・配置されている。

- ⑥漢文教材は、故事成語・漢詩・思想・史話・文章・小説といったジャンルが網羅されている。また、分量も適切で、バランスよく収録・配置されている。
- ⑦『古典編』は、単元ごとに作品の背景についてのコラムが設けられており、それぞれ関連させながら学習を進められるようになっている。

< 3. 表記・表現、及び指導上の工夫 >

- ①脚注は分量・内容とも適切である。また、平易な表現で記述されており、生徒の理解を助けるものとなっている。さらに、内容理解の手がかりとなる箇所には、脚間が示されており、授業展開に資するものとなっている。
- ②現代文教材・古文教材では、意味や用法に注意して身につけておきたい語句は、脚注欄に抜き出して見開きごとに整理してあり、語彙を定着させるのに有益である。また、漢文教材では、基本句形を見開きごとに整理してあり、さらに、巻末付録の「漢文の基本形式」で全ての基本句形を例文とともに整理してあるので、句形の学習において利便性が高い。
- ③現代文教材の学習課題は「学習の手引き」「言葉と表現」「漢字」で構成されており、内容理解だけでなく、言語事項についても多角的に学習することができる。また「言葉と表現」には、教材文の表現の仕方を吟味したり、教材から読み取った内容をもとに表現したりする活動も収録されており、新学習指導要領で示された言語活動を的確に行うことができるよう配慮されている。
- ④表現教材は、活動の手順が具体的かつ簡潔に示され、かつ生徒作品例も挿入されており、生徒にも活動内容が理解しやすく、授業で扱いやすくなっている。
- ⑤『古典編』の「学習の手引き」は、内容理解だけでなく、言語事項・漢文句法についても多角的に学習できるようになっている。また、調べ学習や表現活動にも展開できるようになっており、学校の実態に合わせた弾力的な指導が可能になっている。
- ⑥古典文法についての教材が「古文を読むために」として『古典編』の巻末にまとめられており (p146～p159)、さまざまな学習展開に弾力的に対応できるようになっている。
- ⑦写真・図版の使用が適切である。特に、『古典編』ではカラー図版・カラー写真が視覚的な学習効果を高めるとともに、生徒の興味関心を喚起するものとなっている。

< 4. 印刷・造本上の配慮 >

- ①『現代文編』と『古典編』の分冊になっており、学習の実態に合っている。
- ②活字・写真・挿絵は鮮明で、かつレイアウトも工夫されており、学習に取り組みやすい教科書となっている。
- ③図の色づかいなどは色覚特性に配慮したものになっており、また、用紙が落ち着いた色あい
で光の反射も抑えられているため、読みやすい紙面となっている。
- ④製本は堅牢である。
- ⑤環境にやさしい用紙と植物油インキが用いられており、地球環境や資源への影響も考慮されている。